



DFM Studio 用 Elysium ASFALIS SmartLauncher

インストールガイド

株式会社エリジオン

2022年 1月

目次

1. はじめに	1
1.1. Elysium ASFALIS SmartLauncher の概要	1
2. インストール手順	2
2.1. インストーラー実行前準備	2
2.1.1. ライセンス設定	2
2.1.2. .NET Framework の導入	2
2.2. インストーラー実行	3
2.2.1. 手動インストール	3
2.2.2. サイレントインストール	4
2.3. CADプラグイン初期設定	7
2.4. CAD別の初期設定と注意事項	9
2.4.1. Creo Parametric (Plug-in)	9
2.4.2. SOLIDWORKS (Plug-in)	9
2.4.3. Inventor (Plug-in)	10
2.4.4. CADmeister (Standalone)	10
3. 起動	11
3.1. Windows context メニューからの実行による起動	11
3.2. CADメニューからの実行による起動	11
3.3. CAD 環境をカスタマイズして CAD プラグインを利用する方法	13
3.3.1. NX の場合	13
3.3.2. Creo Parametric の場合	13
4. 実行	15
4.1. 変換実行	15
4.2. シナリオ実行	18
4.3. 実行結果の確認	21
5. アンインストール手順	22
6. トラブルシューティング	23

1. はじめに

1.1. Elysium ASFALIS SmartLauncher の概要

Elysium ASFALIS SmartLauncher (以下 ASFALIS SmartLauncher) とは Elysium 製品を簡単に利用するためのインターフェースとなるツールです。

ASFALIS SmartLauncher には、ASFALIS SmartLauncher (Windows context メニューからの実行) と ASFALIS SmartLauncher (CAD メニューからの実行) の二種類があります。

各ツールの利用方法と実行可能な処理内容は下記の通りです。

	ASFALIS SmartLauncher (Windows context メニューからの実行)	ASFALIS SmartLauncher (CADメニューからの 実行)
利用方法	エクスプローラ上の コンテキストメニュー	CADに組み込まれた メニュー *1
CAD(Plug-in) - CAD(Plug-in) 間の変換	○：実行可	○：実行可
CAD(Plug-in) - CAD(Standalone) 間の変換	○：実行可	○：実行可
CAD(Standalone) - CAD(Standalone) 間の変換	○：実行可	×：実行不可
ファイルに保存された CADデータの変換	○：実行可	○：実行可
オンメモリの CADデータの変換 *2 *5	×：実行不可	○：実行可 *3
ASFALISシナリオの実行	○：実行可 *4	○：実行可 *4
バッチ実行	×：実行不可	×：実行不可

*1: ASFALIS SmartLauncher (CADメニューからの実行) を利用できる CAD は以下の通りです。
Creo Parametric, NX, SOLIDWORKS

*2: ファイルには保存されていない CAD 上で編集集中のデータの変換です。

*3: オンメモリ変換を利用するための設定は、ASFALIS SmartLauncher の [システム設定] ダイアログにある [拡張設定] > [CAD] から行います。

*4: ASFALIS のシナリオ実行を有効にするための設定は、ASFALIS SmartLauncher の「システム設定」ダイアログの「機能」から行います。

*5: NX はエクスポートのみオンメモリ変換に対応しています。Creo Parametric、SOLIDWORKS はインポート、エクスポートともオンメモリ変換に対応しています。

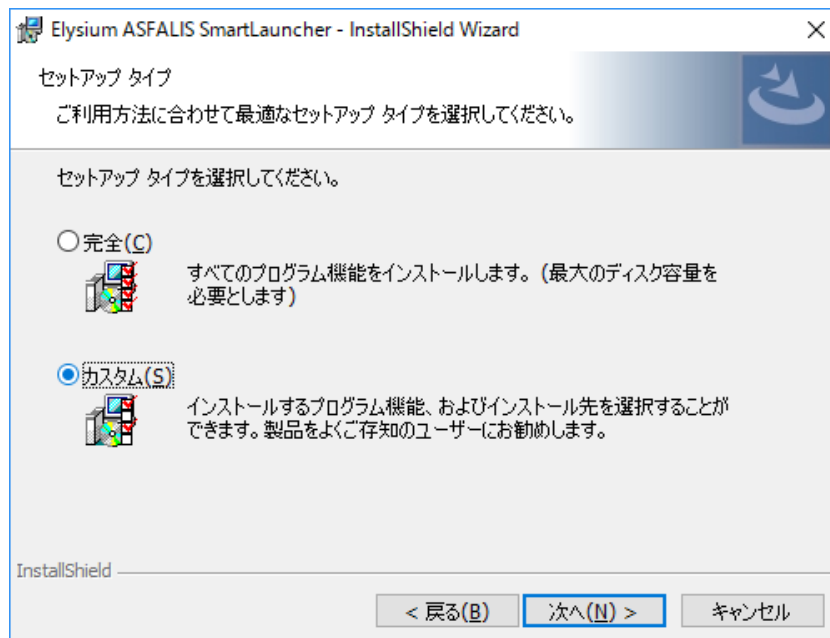
2. インストール手順

2.1. インストーラー実行前準備

2.1.1. ライセンス設定

ASFALIS SmartLauncher のインストール前に、ライセンスサーバーの設定とライセンス登録を行うことを推奨します。ASFALIS SmartLauncher インストール前に実行しておくことにより、所有するライセンスに関連する製品を ASFALIS SmartLauncher インストール時に自動選択することができます。

自動選択を利用する際には、インストーラー実行中に行う「セットアップタイプの選択」で「カスタム」を選択してください。



2.1.2. .NET Framework の導入

ASFALIS SmartLauncher のインストールに先立って .NET Framework の手動インストールが必要となる場合があります。インストールする環境の状況に応じた事前インストールの必要有無は以下の通りです。

■ .NET Framework 4.0～.NET Framework 4.5.1 が導入されている環境

自動で .NET Framework はインストールされません。事前に以下のインストーラーを実行して .NET Framework 4.5.2 を手動でインストールしてください。

- < ASFALIS SmartLauncher インストールパッケージ>\ISSetupPrerequisites\{C4366B56-BE8F-41DA-AEFC-CB5165ADB5D3}\NDP452-KB2901907-x86-x64-AllOS-ENU.exe

■ .NET Framework 4.0 以降が導入されていない環境

インストール時に自動で .NET Framework 4.5.2 がインストールされます。事前作業は不要です。

■ .NET Framework 4.5.2 以降が導入されている環境

事前作業は不要です。

2.2. インストーラー実行

2.2.1. 手動インストール

インストールパッケージ内の setup.exe を実行し、表示されるダイアログの指示に従ってインストールを実行してください。

- [ASFALIS SmartLauncher インストーラー]
 <ASFALIS SmartLauncher インストールパッケージ>\setup.exe



インストール中にシステム設定および変換設定をどの範囲に適用するかを選択する必要があります。

- 「このコンピューターを使用するすべてのユーザー」を選択した場合:
 - 端末上の全ユーザーのデスクトップに ASFALIS SmartLauncher のショートカットが作成され、併せてプログラムの一覧にメニューが追加されます。
 - また特定のユーザーが実施した設定変更が他のユーザーにも適用されるようになります。

加えてユーザーアカウント制御 (UAC) が有効になっている環境では [システム設定] を実行する際に UAC のダイアログが表示されるようになります。

- 「<UserName>のみ」(*<UserName>はインストールを実行しているユーザー名)を選択した場合:

当該ユーザーのデスクトップにのみ ASFALIS SmartLauncher のショートカットが作成され、併せて当該ユーザーのプログラムの一覧にのみメニューが追加されます。特定のユーザーが実施した設定変更は他のユーザーに影響しません。

インストールが実行された後、以下のダイアログが表示されます。「初期設定を行う」にチェックを付けて完了ボタンを押すことで、引き続き初期設定を行うことができます。



2.2.2. サイレントインストール

管理者として実行したコマンドプロンプトからオプションを引数に指定して setup.exe を実行することにより、ASFALIS SmartLauncher をユーザーの入力を必要とせずにインストールすることができます。実行するコマンドの例は以下の通りです。さらにオプションを追加することでインストールするコンポーネントや設定内容を細かく指定することができます。

```
setup.exe /s /v"/qn"
```

- setup.exe は以下のパスにあります。
<ASFALIS SmartLauncher インストールパッケージ>\setup.exe

指定可能なオプションは以下の通りです。

- ELY_SEC_SERVER

説明	ライセンスサーバーのホスト名を指定します。
指定可能な値	任意の文字列
デフォルト値	指定なし(空文字列)
備考	-

- ELY_SEC_PORT

説明	ライセンスサーバーのポート番号を指定します。
値	任意の数字
デフォルト値	5093

備考	-
----	---

• INSTALL_SHELL_EXTENSION

説明	エクスプローラーのシェル拡張を設定するか否かを指定します。
値	0: エクスプローラーのシェル拡張を設定しない 1: エクスプローラーのシェル拡張を設定する
デフォルト値	1
備考	-

• CREATE_ALL_SHORTCUTS

説明	自動的に CAD 起動ショートカットを作成するか否かを指定します。
値	0: インストール時に自動的に CAD 起動ショートカットを作成しない 1: インストール時に自動的に CAD 起動ショートカットを作成する
デフォルト値	0
備考	-

• APPLICATION_USERS_ADT

説明	システム設定および変換設定をどの範囲に適用するかを指定します。
値	AllUsers : システム設定および変換設定を端末上の全ユーザーに対して適用する OnlyCurrentUser : システム設定および変換設定を当該ユーザーに対してのみ適用する
デフォルト値	AllUsers
備考	-
例	システム設定および変換設定の適用範囲を指定する場合の例: <code>setup.exe /s /v"/qn" /v"APPLICATION_USERS_ADT=AllUsers"</code>

• PREFERENCE_INITIAL_DATA_FOLDER

説明	指定されたフォルダー配下にあるファイル (preference_v1.json および user_environment.bat) を、導入環境の以下のパスにコピーします。 <ul style="list-style-type: none"> "APPLICATION_USERS_ADT" に AllUsers を指定した場合 %PUBLIC%¥Documents¥Elysium¥ASFALIS SmartLauncher "APPLICATION_USERS_ADT" に OnlyCurrentUser を指定した場合 %LOCALAPPDATA%¥Elysium¥ASFALIS SmartLauncher
値	任意のパス (フォルダーを指定)
デフォルト値	指定なし (空文字列)

備考	本オプションを指定しなかった場合には、以下にコピーされます。 %PUBLIC%\Documents\Elysium\ASFALIS SmartLauncher
----	--

• INSTALL_<ASFALISコンポーネントキー名>

説明	対象の ASFALIS コンポーネントをインストールするか否かを指定します。
値	0 : 対象の ASFALIS コンポーネントをインストールしない 1 : 対象の ASFALIS コンポーネントをインストールする
デフォルト値	0
備考	キー名を囲む「<>」は不要です。 インストールするコンポーネントの数だけ指定してください。 明示的に指定しないコンポーネントはインストールされません。 コンポーネントを指定するオプションについては、下の表を参照してください。
例	コンポーネントを指定する場合の例： <code>setup.exe /s /v"/qn" /v"INSTALL_NX=1" /v"INSTALL_CATIAV5=1"</code>

オプション	コンポーネント
INSTALL_ACIS	ACIS
INSTALL_ASMEDIT	Assembly Editor
INSTALL_ATTREDIT	Attribute Editor
INSTALL_CATIAV4	CATIA V4
INSTALL_CATIAV5	CATIA V5
INSTALL_3DEXPERIENCE	3DEXPERIENCE
INSTALL_CFIO	CADmeister (Standalone)
INSTALL_CREO	Creo Parametric
INSTALL_DSACREO	Creo Parametric (Standalone)
INSTALL_DSANX	NX (Standalone)
INSTALL_DSAV5	CATIA V5 (Standalone)
INSTALL_ENFCHECKER	PDQ Checker
INSTALL_ENFEDITOR	ENF Editor
INSTALL_ICAD	iCAD
INSTALL_IDEAS	NX I-deas
INSTALL_IGES	IGES
INSTALL_INTERCHECK	Interference Checker
INSTALL_INVENTOR	Autodesk Inventor
INSTALL_JT	JT

オプション	コンポーネント
INSTALL_NX	NX
INSTALL_OSD	Creo Elements/Direct
INSTALL_PARASOLID	Parasolid
INSTALL_PLMXML	PLM XML
INSTALL_POLYGONOPTIMIZE	Polygon Optimizer
INSTALL_SIMPLIFY	Geometry Simplifier
INSTALL_SOLIDWORKS	SOLIDWORKS
INSTALL_STEP	STEP
INSTALL_STEPBOM	STEPBOM
INSTALL_STL	STL
INSTALL_VALIDATION	CAD Validator
INSTALL_XVL	XVL
INSTALL_3DPDF	3D PDF
INSTALL_3DXML	3DXML

2.3. CADプラグイン初期設定

初期設定ダイアログには、レジストリから自動検知された各 CADの導入フォルダーが表示されます。同一 CADバージョンが複数導入されている場合や、過去の古い CAD情報がレジストリに残っている場合には自動検知に失敗する場合があります。

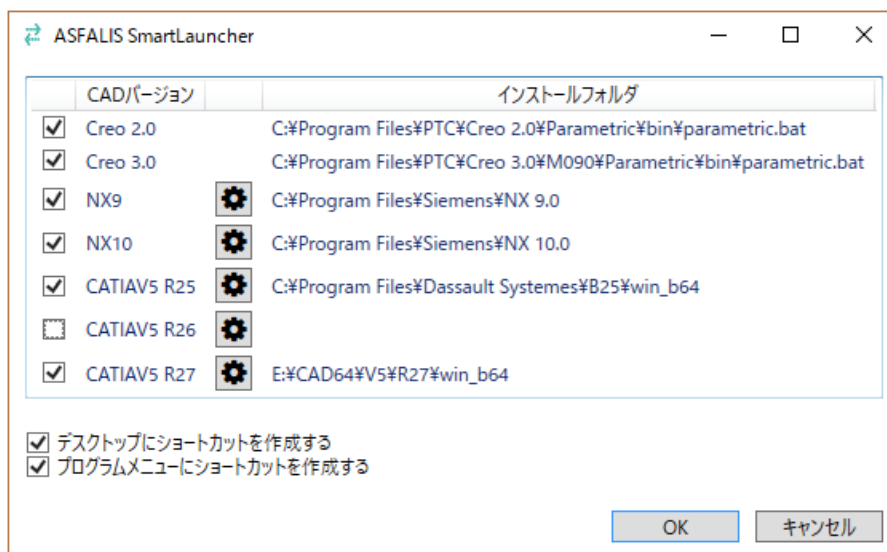


図 1. 初期設定ダイアログ

- CADを起動する際の環境ファイル (CATIA V5の ENVファイル、NXの custom_dirs.dat) はダイアログ上の設定アイコン () から指定してください。

- 表示されている CAD 導入環境の変更が不要な場合は、[OK] を押して「3, 起動」へ進んでください。



上記ダイアログ内のオプション「デスクトップにショートカットを作成する」「プログラムメニューにショートカットを作成する」は、チェックボックスで選択した CAD バージョンに対してのみ有効です。

- 表示されている CAD 導入環境を変更する場合、または導入されている CAD バージョンが表示されていない場合は、キャンセルボタンを押して表示される「システム設定」ダイアログにて CAD 導入環境を変更してください。



インストーラーを使用せずに CAD を導入している場合などは、CAD 自体がダイアログに表示されません。

- 「システム設定」ダイアログ内の各 CAD のタブにて必要な CAD の導入環境の設定を行ってください。「システム設定」ダイアログ内の「CAD 起動ショートカット作成...」ボタンを押すと、ダイアログが表示されデスクトップ上にショートカットを作成することができます(*)。



(*): CAD の UI から ASFALIS SmartLauncher を起動するためには、当該 CAD が ASFALIS SmartLauncher のサポートする最新の 3 バージョンのいずれかである必要があります。それらよりも古いバージョンでは、CAD の UI から ASFALIS SmartLauncher を起動することはできません。

またこのため、それらのバージョンについては「CAD 起動ショートカット作成...」ボタンは表示されません。古いバージョンの CAD については、コンテキストメニューからのみ変換を実行することができます。

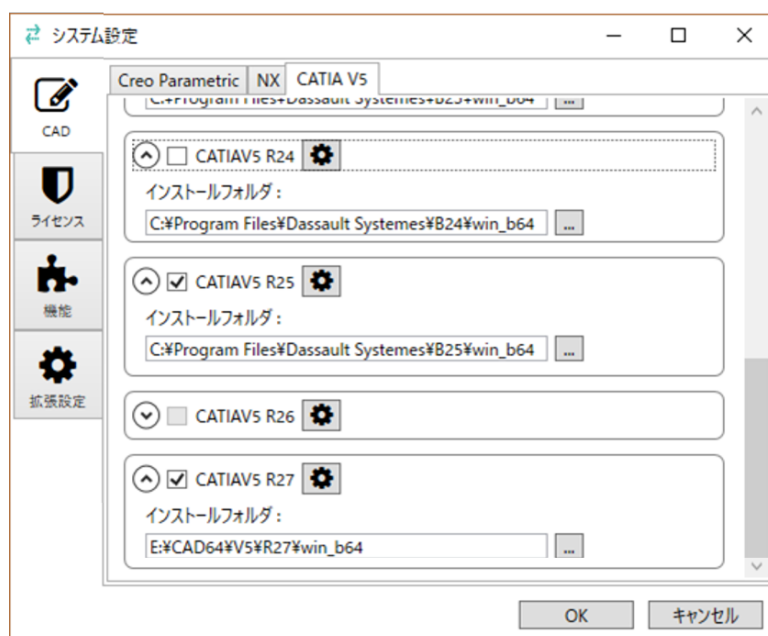


図 2. 「システム設定」ダイアログ

- 設定完了後、「システム設定」ダイアログ内の [OK] を押して「3, 起動」へ進んでください。



インストール後に CAD 環境の設定を変更する場合は、下記のメニューから「システム設定」ダイアログを表示させて設定を変更してください。各 CAD バージョンのチェックボックスにより、変換に使用する CAD バージョンの有効/無効を指定することが可能です。

。 [すべてのプログラム] - [Elysium ASFALIS SmartLauncher] - [システム設定]

2.4. CAD別の初期設定と注意事項

2.4.1. Creo Parametric (Plug-in)

オンメモリ設定が OFF の場合、Creo Parametric を起動したまま変換を実行すると、起動している Creo Parametric とは別に新たに Creo Parametric を使用する変換が実行されます。

その際、Creo Parametric のライセンスファイルに "DUP_GROUP" というキーワードが含まれない場合には、Creo Parametric 自体のライセンスを 2 本必要としますのでご注意ください。

オンメモリ設定が ON の場合は、従来同様、Creo Parametric のライセンスを 1 本のみ使用します。

オンメモリ設定が ON の状態で CAD メニューから変換を実行した場合には、旧アダプターが指定されている場合でも新アダプターを使用します。

2.4.2. SOLIDWORKS (Plug-in)

- CAD メニューから変換を実行した場合には、旧アダプターが指定されている場合でも新アダプターを使用します。
- アダプターを使用する場合には、複数のバージョンの SOLIDWORKS を使い分けることはできません。複数のバージョンがインストールされている場合は、最後に起動したバージョンの SOLIDWORKS が変換に使用されます。
- 旧アダプター使用時、OS が Windows 8.1 および Windows 10 で、UAC が有効になっている場合、下記の設定が必要となります。
 1. 一時的に UAC を無効に設定し、コンピューターを再起動します。
 2. マクロ (load_addin.swp) を編集します。SOLIDWORKS を管理者として起動します。メニューから [ツール] - [マクロ] - [編集] を選択して load_addin.swp を開いてください。load_addin.swp はアダプターと同じフォルダーに存在します。
 - 例 : D:\bin\SwExe\win\2015\load_addin.swp
 3. load_addin.swp で下記の行を dll のフルパスに変更し、マクロを保存してください。
 - 変更前

```
Const sAddinName As String = "sw2nut.dll"
```

- 変更後 : 例

```
Const sAddinName As String = "D:\bin\SwExe\win\2015\sw2nut.dll"
```

4. マクロを実行します。
SOLIDWORKS のメニューから [ツール] - [マクロ] - [実行] を選択し、2.で保存したマクロを実行してください。
 5. SOLIDWORKS のメニューから [ツール] - [アドイン] を選択し、表示されるアドインウインドウに「Sw2nutAddin」と表示されていることを確認します。
 6. UAC を有効に戻し、コンピューターを再起動します。
- SOLIDWORKS 向けの ASFALIS SmartLauncher (Plug-in) は、インストールしただけではメニューに表示されません。以下の手順で有効化してください。
 1. "ASFALIS SmartLauncher for SOLIDWORKS 20**" を用いて SOLIDWORKS を起動します。
(20** は SOLIDWORKS のバージョン)
 2. メニューから [ツール] - [アドイン] を選択します。
 3. "アドイン" ダイアログで "Elysium Tool for SOLIDWORKS" をチェックします。
 4. [OK] を選択して "アドイン" ダイアログを閉じます。

2.4.3. Inventor (Plug-in)

同一コンピューターに複数のバージョンの Inventor をインストールしてバージョンを使い分けてアダプターを使用することはできません。複数のバージョンがインストールされている場合は、最後に起動したバージョンの Inventor が変換に使用されます。

2.4.4. CADmeister (Standalone)

ASFALIS SmartLauncher に同梱されている CRESTAM フォルダを、ASFALIS SmartLauncher 導入フォルダーがあるドライブのルートフォルダーに配置する必要があります。

- 例 : ASFALIS SmartLauncher 導入フォルダーが Cドライブにある場合

```
C:\CRESTAM
```

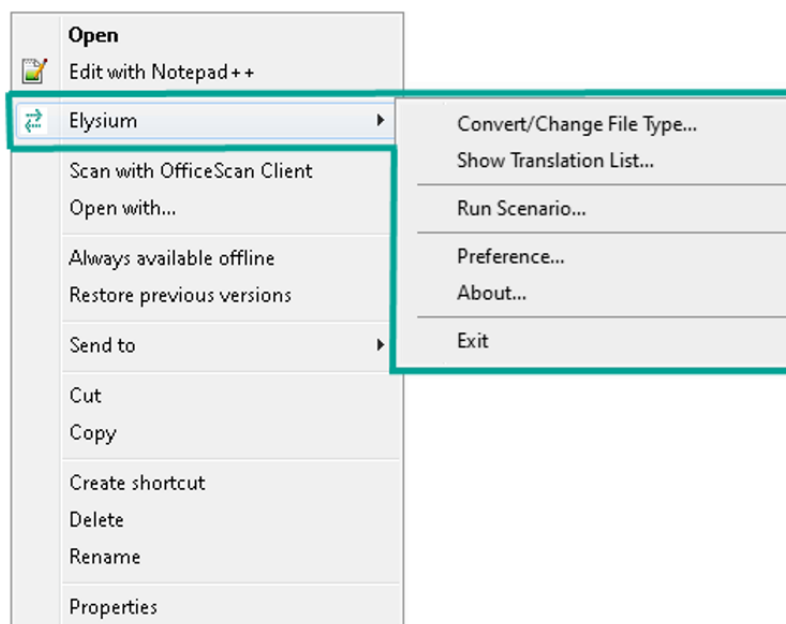
3. 起動

ASFALIS SmartLauncher (Windows context メニューからの実行)、ASFALIS SmartLauncher (CAD メニューからの実行) は以下の各メニューから起動することができます。

3.1. Windows context メニューからの実行による起動

以下の手順でエクスプローラーのコンテキストメニューから起動することができます。

1. 変換対象ファイルを選択し右クリックします。
2. 表示されるコンテキストメニューから [Elysium] - [変換] を選択します。「開く」ダイアログが表示されます。



3.2. CADメニューからの実行による起動

ASFALIS SmartLauncher (CAD メニューからの実行) は Windows メニューまたはデスクトップ上のショートカットから起動することができます。

■ **Windows** メニューから起動する場合は以下のメニューから起動したい **CAD/バージョン**のバッチを実行してください。

- [Windowsメニュー] - [すべてのプログラム] - [Elysium ASFALIS SmartLauncher] - [ASFALIS SmartLauncher for _(CAD名)_(Version)]

■ デスクトップ上に作成されたショートカットから起動する場合は、起動したい **CAD/バージョン**のバッチのショートカットを実行してください。

- [デスクトップ上のショートカット] - [ASFALIS SmartLauncher for _(CAD名)_(Version)]

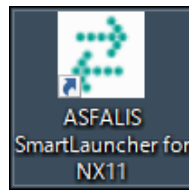


図 3. NX11起動用ショートカットの例



ASFALIS SmartLauncher (CAD メニューからの実行) は特定の CAD バージョンのみが対象となります。ASFALIS SmartLauncher (CAD メニューからの実行) をサポートする CAD のバージョンについては、別冊 "ASFALIS SmartLauncher サポート CAD バージョン一覧" を参照してください。

それ以外の CAD バージョンについてショートカットは作成されず、CAD メニューから ASFALIS SmartLauncher を実行することはできません。ASFALIS SmartLauncher (Windows context メニューからの実行) を利用してください。

ASFALIS SmartLauncher (CAD メニューからの実行) は CAD のメニューに組み込まれて表示されます。

CAD	ASFALIS SmartLauncher (CAD メニューからの実行) 表示位置
Creo	
NX	
SOLIDWORKS	

3.3. CAD 環境をカスタマイズして CAD プラグインを利用する方法

カスタマイズされた CAD 環境 (Teamcenter 環境の NX を含む) や既定の CAD 起動用ショートカット経由で ASFALIS SmartLauncher (CAD メニューからの実行) を利用する方法は以下の通りです。

3.3.1. NX の場合

1. 各種カスタムアプリケーション統合 NX 環境など NX を起動する際に参照している UGII_CUSTOM_DIRECTORY_FILE (custom_dirs.dat等) に、下記の ASFALIS SmartLauncher (CAD メニューからの実行) の導入フォルダーのパスを追記します。

- <ASFALIS SmartLauncher 導入フォルダー>\cad_plugin\114\<NXバージョン>
例:

```
C:\Program Files\Elysium\ASFALIS SmartLauncher\cad_plugin\114\NX1953
```



Teamcenter 経由で NX を起動し DFM シナリオを実行すると、Teamcenter Rich Client を起動するバッチの中で PowerShell のパスが消えてしまい、dscheck を実行できなくなります。以下のように環境変数 "AUX_PATH" に PowerShell のフォルダーを指定することで正常に実行できます。

```
AUX_PATH=C:\WINDOWS\System32\WindowsPowerShell\v1.0\
```

3.3.2. Creo Parametric の場合

1. 任意の場所に protk.dat ファイルを作成します。このファイルには以下の内容を記載してください。(ASFALIS SmartLauncher を既定のフォルダーに導入しており、Creo Parametric 6.0 を利用する場合)

```
NAME ELY_CREOP_CONVERTER_PLUG_IN
EXEC_FILE C:\Program Files\Elysium\ASFALIS
SmartLauncher\cad_plugin\104\Creo6\dll\PDMPProe.dll
TEXT_DIR C:\Program Files\Elysium\ASFALIS
SmartLauncher\cad_plugin\104\Creo6\text_fbt
REVISION Wildfire
STARTUP dll
END
```

2. Creo Parametric が起動時に読み込む config.pro に下記の行を追加します。(既定では、<Creo Parametric のインストールフォルダー>\Common Files\text\config.pro が読み込まれます)

PROTKDAT <手順 1. で作成した protk.dat のフルパス>

4. 実行

4.1. 変換実行

ASFALIS SmartLauncher (Windows context メニューからの実行) では、右クリックで選択したファイルを他の CAD データへ変換することができます。変換を実行する際はメニュー内の「変換」を選択してください。

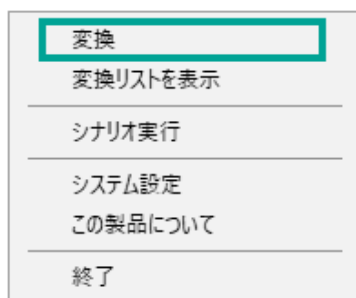


図 4. ASFALIS SmartLauncher (Windows context メニューからの実行) のメニュー

ASFALIS SmartLauncher (CAD メニューからの実行) では、他の CAD データを起動している CAD に読み込んだり、CAD で開いているデータを他の CAD データに変換したりすることができます。他の CAD のデータを読み込む場合はメニュー内の「Import」を、他の CAD のデータとして出力する場合はメニュー内の「Export」を選択してください。

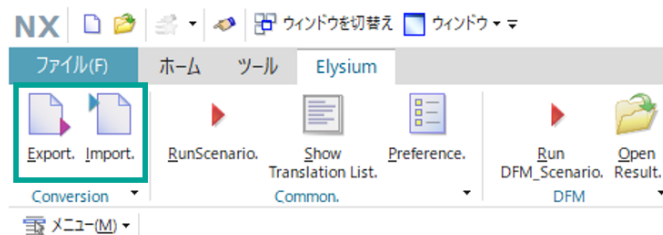


図 5. ASFALIS SmartLauncher (CAD メニューからの実行) のメニュー (NX の例)

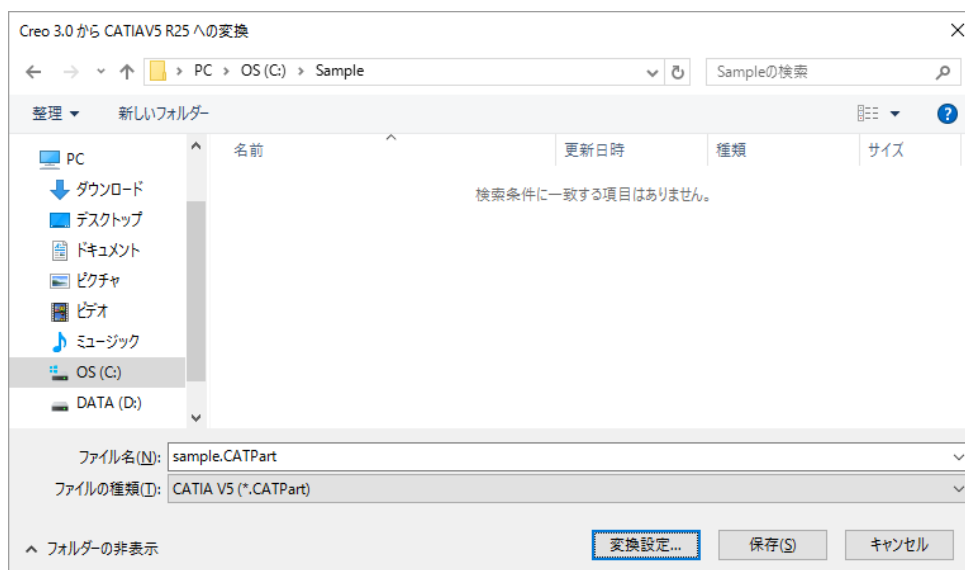


図 6. 例) Creo から CATIA V5 への変換実行時のファイルダイアログ

変換を実行するメニューを選択すると、ファイルダイアログが表示されます。ファイル名を指定して「開く」ボタン、または「保存」ボタンを押すと変換が開始されます。



変換やチェックの実行には、専用のライセンスが必要となります。ライセンスがない場合、処理はエラー終了します。

変換設定を変更するには変換の実行前に [変換設定] ボタンを押してください。設定には「簡易設定」と「高度設定」の2種類があります。

- 簡易設定 : 変換対象要素や変換に使用する CAD のバージョンを変更することができます。
- 高度設定 : 簡易設定よりさらに詳細な変換条件や自動修正の設定を変更することができます。(中級者以上向け)

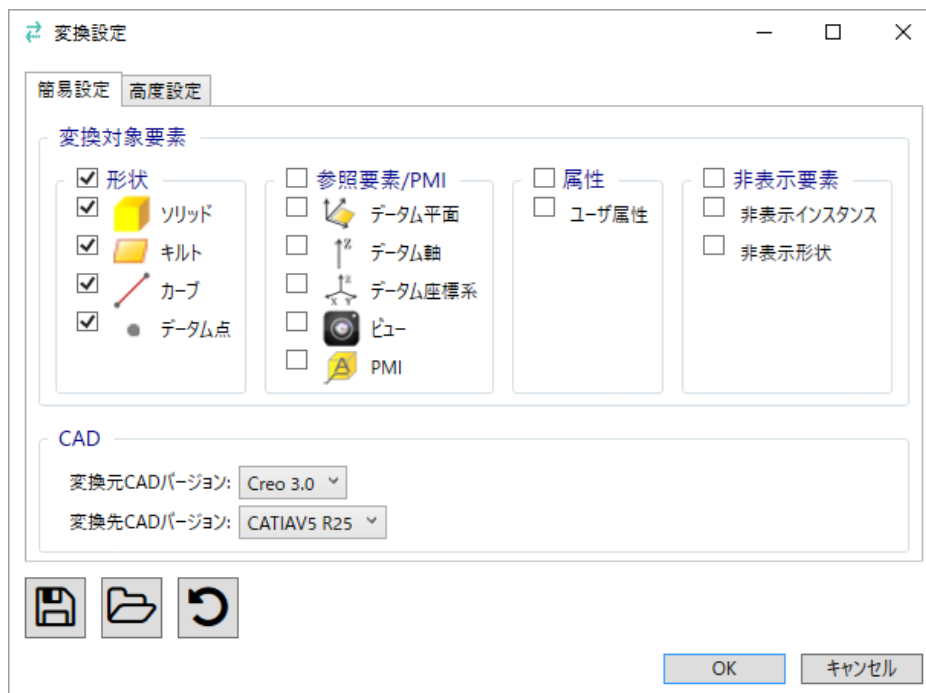


図 7. 例：簡易設定ダイアログ

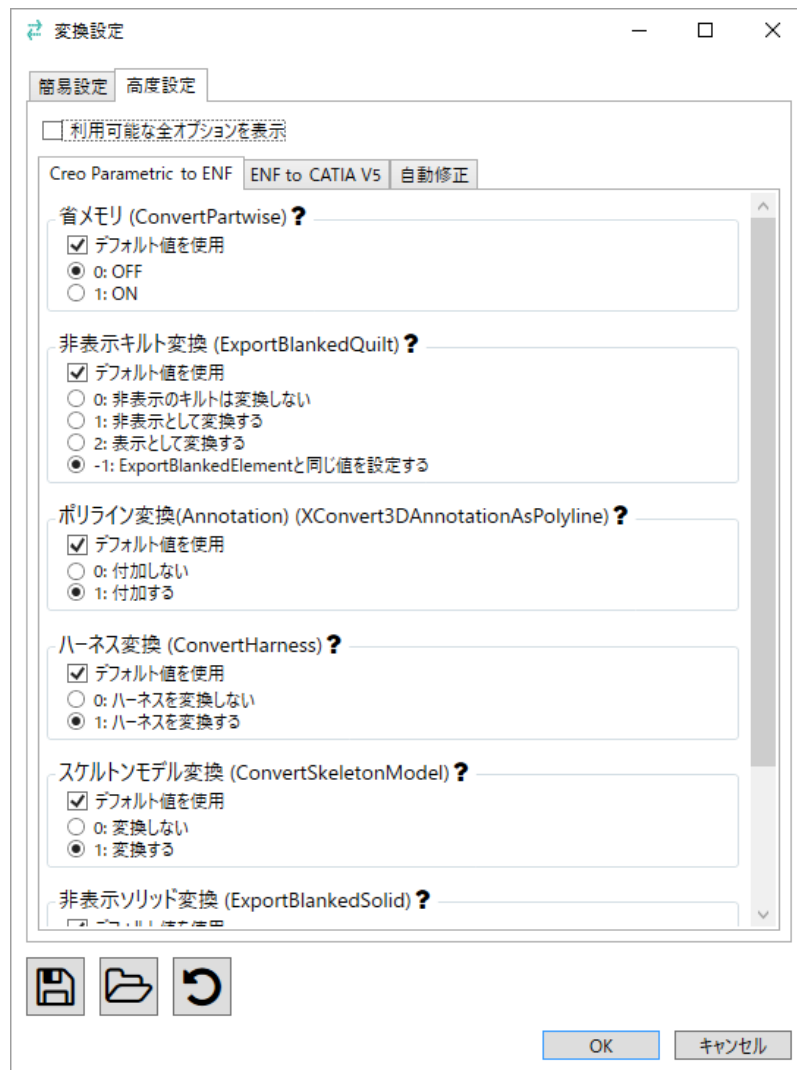
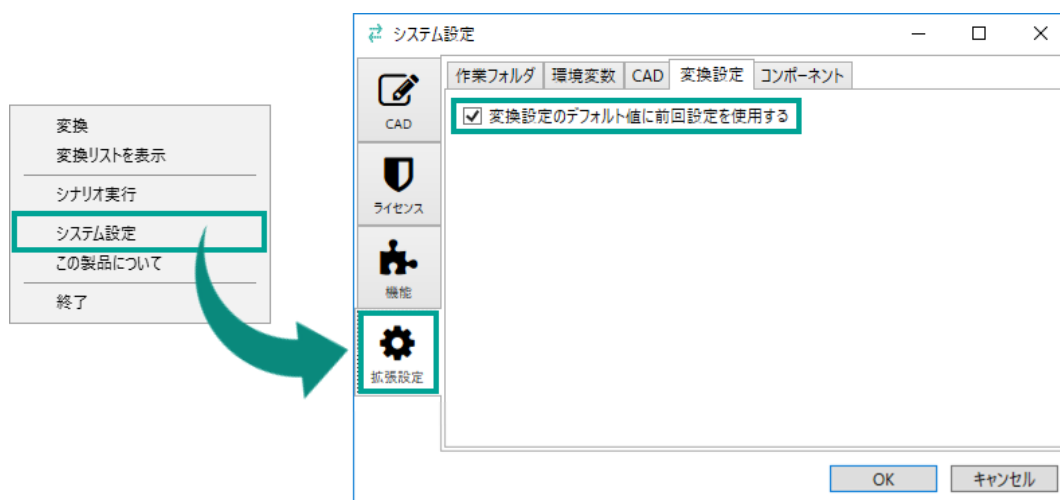


図 8. 例:高度設定ダイアログ

変換時に設定した内容を次回以降の変換でも使用したい場合には、[変換設定の変更をデフォルト設定に反映する] を有効化してください。こちらの項目は [システム設定] - [拡張設定] の [変換設定] タブで有効化することができます。なお本設定を有効化した状態から無効に変更すると、その時点での設定内容がその後のデフォルト値として記憶されます。



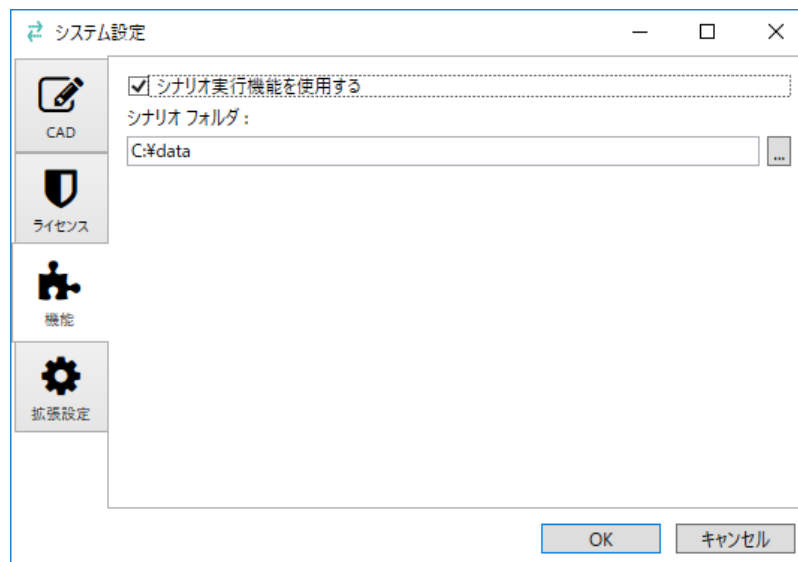
4.2. シナリオ実行

ASFALIS Controller、もしくは ASFALIS ScenarioCreator で作成したシナリオを利用して、ASFALIS SmartLauncher から変換を実行することができます。

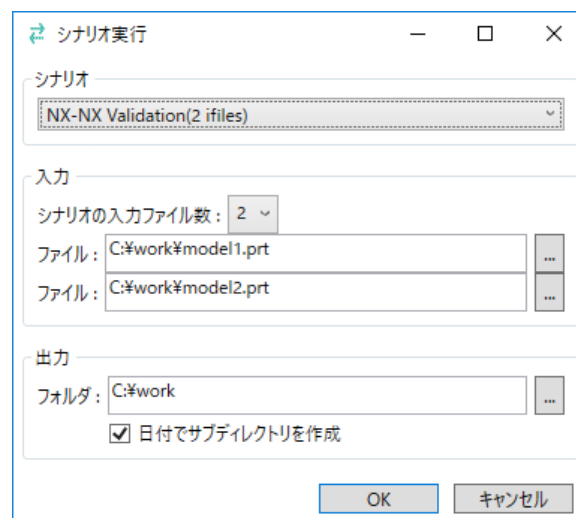
1. 以下のいずれかの方法でシナリオ実行を開始します。

- ASFALIS SmartLauncher (Windows context メニューからの実行) からシナリオを実行する場合メニューから「シナリオ実行」を選択します。
- ASFALIS SmartLauncher (CADメニューからの実行) からシナリオを実行する場合メニューから「Run DFM_Scenario」を選択します。

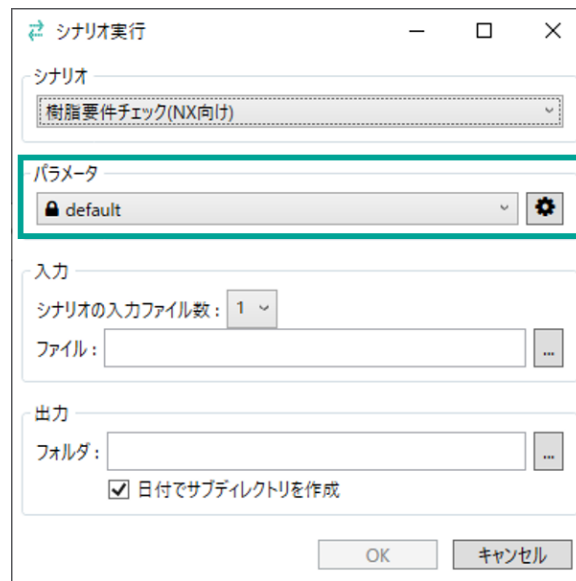
シナリオ実行のメニューは、ASFALIS SmartLauncher の「システム設定」ダイアログ内にある「機能」で、「ASFALIS のシナリオ実行機能を使用する」を ON にすると表示されます。「機能」ではシナリオフォルダーも指定することができます。



2. 以下のようなシナリオ実行ダイアログが表示されます。実行したいシナリオと出力先フォルダーを指定して [OK] を押します。



パラメーターがセットされている DFM Studio 向けのシナリオを選択すると、以下のように同時にパラメーターセットも選択することができます。



なおここでギアマークをクリックすると、パラメーターセットの内容を編集することもできます。ただし、編集を行うためには事前に Microsoft Excel をインストールしておく必要があります。



パラメーターセットは既定で 1 つのみ登録されています。必要に応じて管理者が追加してください。

入力ファイルについて



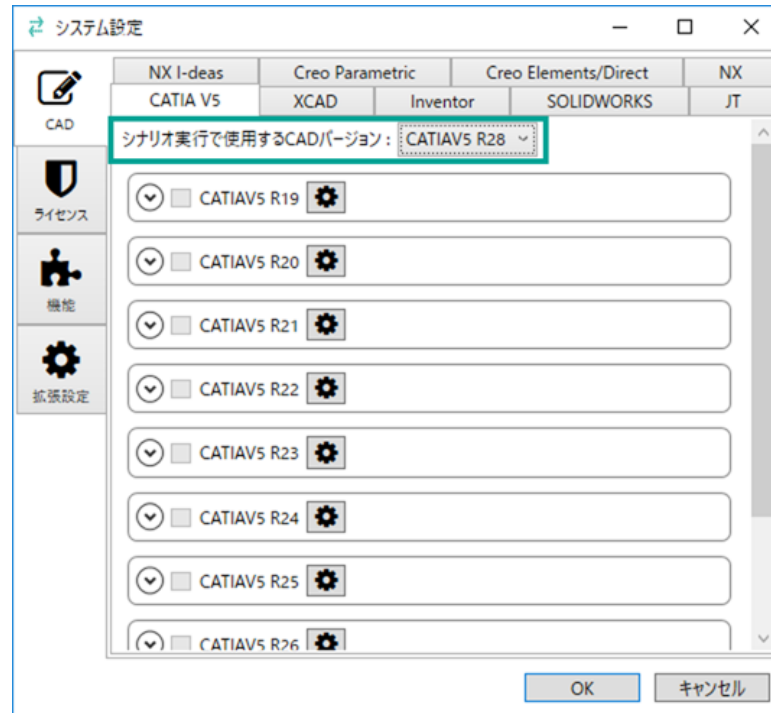
- ASFALIS SmartLauncher (Windows context メニューからの実行) では、ASFALIS SmartLauncher (Windows context メニューからの実行) を起動する際に選択したファイルが、シナリオの入力ファイルとなります。
- ASFALIS SmartLauncher (CADメニューからの実行) では CADで開いているデータが、シナリオの入力ファイルとなります。



シナリオで定義された入力ファイルの種類、数、順番が実際の入力と異なると実行エラーとなります。例えば NX のモデルを入力 1、CATIA V5 のモデルを入力 2 として CAD比較を実行するシナリオでは、最初に NX のモデルを選択し続いて Shift キーを押しながら CATIA V5 のモデルを選択した上で、Windows context メニューから "シナリオ実行" を選択してください。先に CATIA V5 のモデルを選択し、次に NX のモデルを選択した場合にはエラーとなります。

シナリオ実行ウインドウには、シナリオで定義されている入力ファイルの種類に関わらずすべてのシナリオが表示されるため、シナリオ名には入力ファイルの種類、数、順序が判別できる名前を使用することを推奨します。

シナリオ実行で使用する CAD のバージョンは、システム設定の CAD タブにある "シナリオ実行で使用する CAD バージョン" で指定することができます。



4.3. 実行結果の確認

変換を実行すると変換リストが表示され変換の進捗を確認することができます。ASFALIS SmartLauncher で実行した変換完了後は、変換リストから結果ファイルの出力先フォルダーを開いたり、変換結果ファイルを CAD で開いたりすることができます。

DFM Studio 向けの検証シナリオを実行した場合には、変換結果を選択すると DFM Inspector が起動し、チェック結果を確認することができます。

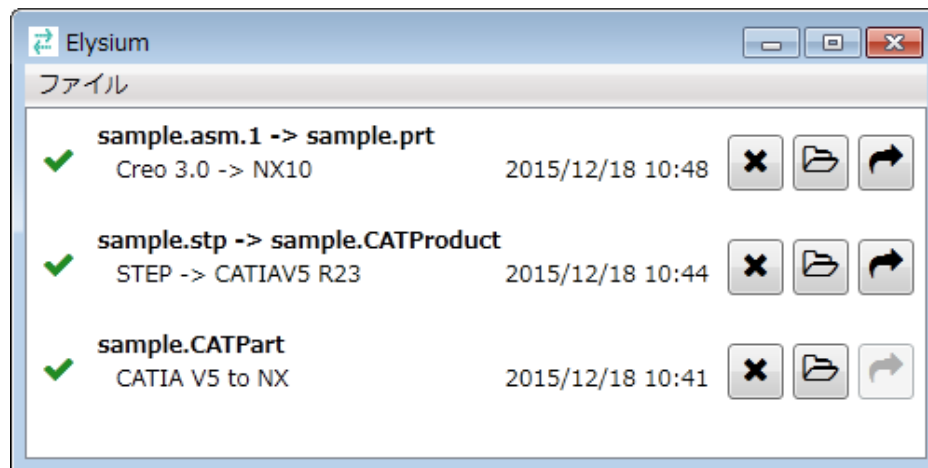


図 9. 変換リスト



変換リスト上で変換結果を選択して CAD で直接開く場合には、あらかじめ該当する CAD を起動しておく必要があります。



変換リストは ASFALIS SmartLauncher のメニューからいつでも起動することができます。

5. アンインストール手順

ASFALIS SmartLauncher は以下の手順でアンインストールしてください。

1. 変換リストが起動している場合には終了します。変換リストのファイルメニューから [終了] を選択するか、タスクトレイのアイコンを右クリックして [終了] を選択してください。
2. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
3. [アプリ] を選択します。
4. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium ASFALIS SmartLauncher Base" を選択して、アンインストールを実行します。



変換リストが起動したままの状態ではアンインストールを実行した場合、一部のファイルが正しく削除されないことがあります。

6. トラブルシューティング

- a. [現象] ASFALIS SmartLauncher が起動しない。

[対策] ASFALIS SmartLauncher が正しくインストールされていない可能性があります。
ASFALIS SmartLauncher の再インストールをお試しください。

- b. [現象] Windchill と接続した Creo Parametric を用いた場合に、Windchill 管理下のモデルの変換に失敗する

[対策] Windchill 管理下のモデルをファイルとして保存した後で、変換をお試しください。

- c. [現象] 変換が実行できない/変換したい CADがファイルの種類に表示されない

[対策] ライセンスが正しく登録されているかご確認ください。

- d. [現象] 変換が完了しない、実行エラーとなる

[対策] モデル依存の現象か否かをご確認ください。

- モデル依存ではない場合 (どのようなモデルでもエラーとなる場合)

CAD (Plug-in) の変換の場合は ASFALIS SmartLauncher の CAD設定が正しく設定されているか確認してください。2.4, “CAD別の初期設定と注意事項” をご確認ください。

- モデル依存の場合

変換ログと現象が再現するモデルを用意し、購入元の販売代理店またはエリジオンへお問い合わせください。変換ログは作業フォルダー内に作成されます。以下のフォルダーにあるファイル一式をご用意ください。

- <作業フォルダー>\<任意フォルダー>

- 作業フォルダーは、ASFALIS SmartLauncher の「拡張設定」で指定されたフォルダーです。指定していない場合は環境変数 TEMP で指定されたフォルダー内に作成される「canvas」フォルダーが作業フォルダーになります。

例: C:\Users\username\AppData\Local\Temp\canvas

- 任意フォルダーは、変換ごとに作成される 8文字の任意名のフォルダーです。

変換リストで該当する変換を選択し、右クリックして表示されるコンテキストメニューから変換ログを表示したり、その変換で使用した作業フォルダーへ移動したりすることができます。

- e. [現象] ASFALIS SmartLauncher (Windows context メニューからの実行) の変換結果と ASFALIS SmartLauncher (CADメニューからの実行) の変換結果が異なる

[対策] ASFALIS SmartLauncher (CADメニューからの実行) でオンメモリ変換を ON にしている場合、ファイル変換を行う ASFALIS SmartLauncher (Windows context メニューからの実行) とは変換処理が異なるため、変換結果は完全には一致しません。変換結果を一致させたい場合は、「システム設定」ダイアログで ASFALIS SmartLauncher (CADメニューからの実行) のオンメモリ変換を OFF にしてください。

f. [現象] Teamcenter NX 環境でエクスポートおよびシナリオ実行に失敗する

[対策] 「システム設定」ダイアログの「拡張設定」から「エクスポートにオンメモリモードを使用する」のチェックをONにした上で変換をお試し下さい。なお、Teamcenter NX 環境でのインポートの使用はサポート対象外です。

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの行為
をすることは禁じられています。